

ビジュアル系
子ども・家族の
理解と支援

3・超具体的に
コミュニケーション
を支援（幼児期編）



今回のエア絵本は、子育て支援の自助グループでママ友、パパ友が経験談を語り合うという設定です。

最初の図は「家庭における幼児期の課題」で、ソーシャル・スキルの種みたいなもの。あとの話はその発芽についてです。

“幼児期の課題”

つながり

共有の体験

〔待つ・待たされる〕
〔教える・教えられる〕
ストレスの重要性

役立ち体験

〔あてにされる〕と
〔どうせ自分は〕
の差異

割り込みスキル

〔人を不快にせず
注意を惹く〕
技

心のバランス

並行して発達障害バージョンをつくっているとき、そこには通常発達にとっても大事なことがいっぱい含まれていることに気が付きました。いまさら、だけど。

※ 絵は団士郎氏の許諾を得て、木陰の物語と家族の練習問題から転載しています。

(1) 割り込み系&控えめ系

割り込み系は手がかかり、控えめ系には手をかける。それぞれの個性に合わせて接することが大事ってことじゃないかな



同じ血を引いた姉妹なのに、お調子ノリでウケねらいの〔割り込み系〕とすねない・のらない・あまえない〔控えめ系〕に分かれるなんて不思議だわ



(2) ほめるよりのせる

確かに、それでほめ言葉はどんどん軽くなるのよね。不自然にほめるより、「～で助かった、～が役だった」とノセる方がいいと思う。あてにされ感・役立ち感は、子どもの生きる力を高めるもの



できてあたりまえのことに「えらいね」と声かけしたり、できていないとき「えらいねえ」と促したり、よく考えたらヘンだと思わない？



(3) 共有とストレス

“時間・モノ・場所”を他人と共有するのはルールや役割意識を育むうえで大切だけど、ストレスになるのも事実だね。でもそれで身に付くストレス耐性は、学校に行きだすと確実に役立つよ



最近、「どうして何でもお兄ちゃんが先なんだよ。いつも待たされてばかりで損だよ」って下の子がうるさいんだ



(4) フツーのとき

子どもなんだもの、あたりまえよ。実際、一日の〔いい・わるい・フツー〕を比べたら9割以上は〔フツー〕だから

そう、だから〔フツー〕に注目するのが自然よ。そのそばで無理に話しかけず、独りごと風につぶやけばいい感じのやりとりになるわよ



「いいところを見つけてしっかりほめなさい」って園長先生から言われたけど、わざわざほめるほどのことなんてないのよね



(5) フツーのとき (続き)

叱られる・注意される・心配させる等で〔問題中心〕のやりとりをする限り、問題はなくならないわ。さっきも話題になったけど、〔フツー〕でもやりとりできることを知れば変わってくると思う。まず、オウチでそこを経験させてあげて



保育園の先生に叱られても、「見てくれないよりいいもん」なんて言うのよ。少しくらい褒められることをしたらどうなの！と いつも言ってるんだけど・・



参考：こころの満足度ランキング

- 1位 役に立つ→社会への貢献感
- 2位 認められる→個人的な満足感
- 3位 ほめられる→上から目線の評価
フツーに話題にされる→見ている
- 4位 叱られる→見放されていない
- 5位 無視される→存在感が得られない

